

平成20年度 第5回 渡子小学校校内研修(道徳教育)

- ◆ 日時 平成20年9月4日(木)13:40～16:30
- ◆ 場所 渡子小学校6年生教室
- ◆ 参加者 渡子小学校教職員 音戸中学校(校長・教務主任・研究主任) 音戸小学校長

1 授業公開(13:40～14:25)

主題名 郷土を見直す 4-(7)郷土愛
資料名 「親から子へ、そして孫へと」 (出典:東京書籍)
学習者 第6学年 男子2名 女子3名 計5名



◆授業の概要

- 導入………自分たちの郷土で自慢できることは何か、今までの総合的な学習の時間での学習を思い起こし、価値への方向づけを行い、資料の前半につなげる。
- 資料提示… 写真や絵、言葉を掲示しながら、語る。
(主人公の健太の気持ちを考えながら聞くことを指示して語り始める。)
- 展開前段…①健太はどんな気持ちで「北山神楽保存会少年の部」に入ったのか考える。
②二人(清三じいさん・豊のお父さん)の言葉に込められた思いを考える。
③「子どもの手による北山神楽」のポスターの文字を見る健太の気持ちを考える。ワークシート活用。(中心発問)
- 展開後段…未来の人のために残したいと思うものは何か発表する。
- 終末………中学校の先生に、中学生達が行っている、「音戸の舟唄」や「清盛太鼓」の取組についてビデオを見せながら語ってもらう。

◆ 協議会

講師—広島大学大学院教育学研究科
准教授 朝倉 淳 先生

○協議の柱

- ・ 郷土を愛する心情を深めるための指導方法(授業の展開)とは、いかにあるべきか。



- 改正された教育基本法(平成18年)や学校教育法(平成19年)には、それぞれ「郷土を愛する態度を養う」ことが目標の一つとして記されている。この度の学習指導要領の改訂は、教育基本法、学校教育法の改正を踏まえて行われている。(連動している。)

○ 新しい教育課程では、「郷土を愛する態度」の基礎となる「郷土を愛する心」がどのように位置づけられ、育成をどのように実践していくか等について、次の3点について指導を受ける。

- I 教育課程上にどのように位置付いているか。
- II どのように育成するか。
- III 道徳の時間をどのように構成するか。

I について

(1) 道徳教育における「郷土を愛する心」の位置付け

郷土を愛することは、道徳教育の目標として新たに追加された点の一つである。(総則) 教育課程上、「郷土を愛する心」が最も明確に位置付けられているのは道徳教育である。

(2) 教科教育における「郷土を愛する心」の位置付け

小学校学習指導要領には、各教科においても「郷土を愛する心」に関係する記述が見られる。

生活科—地域のよさに気付き、愛着をもつ…

社会科—郷土資料館…身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査…

音楽科—郷土の音楽

中学校学習指導要領にも、各教科において「郷土を愛する心」に関係する記述が見られる。

社会科(歴史分野)—身近な地域の歴史上の人物を取り上げることに留意…

身近な地域の歴史…郷土資料館…

音楽科———郷土の伝統音楽…

技術・家庭科(家庭分野)—主として地域又は季節の食材を利用することの意義…

地域の伝統的な行事食や郷土料理…

(3) 総合的な学習の時間、及び特別活動における「郷土を愛する心」の位置付け

・郷土を体験的に理解していく学習の場

【まとめ—「郷土を愛する心」の教育課程上の位置付け—】

- 1 「郷土を愛する心」は教育課程上、道徳教育に中心的に位置付けられており、各学年段階の内容には、親しむ、大切にすること、知る、自覚する、発展に努める、という方向性をもって発展的に位置付けられている。
- 2 各教科では、「郷土」の具体的な内容として、地域での生活、身近な地域の人物や歴史、郷土の伝統音楽などの文化、地域の行事食や郷土料理などが学習され、自らの郷土についての理解が深められるようになっている。
- 3 「総合的な学習の時間」や特別活動においては、地域や学校の特色に応じて、地域の人々の暮らし、伝統、文化などを問題解決的、体験的に学習することや、学校行事などにおいて様々な人と触れ合ったり自然体験や社会体験などの体験活動を行ったりすることなどへの配慮が求められている。
- 4 教育基本法、学校教育法、学習指導要領において、「郷土を愛する心」は「国を愛する心」との関係において位置付けられている。

Ⅱについて

(1)「道徳の時間」からのアプローチ

要として「郷土を愛する心」に焦点を当てた「道徳の時間」を設定し、その前後にある各教科等において関係の深い学習内容を確認したりその学習時期を調整したりして、「郷土」に関する一定の学習のまとまりを構成する。

(2)「総合的な学習の時間」からのアプローチ

身近な地域における事象を取り上げ、問題解決的な学習として、体験的に学習するように構成する。関係する各教科の学習内容を意識的に結びつけたり、「郷土を愛する心」に焦点を当てた「道徳の時間」を位置付ける。

(3)特設教科「郷土科」の取組

(例)土堂小学校

Ⅲについて

(1)道徳教育の今日的課題は何か？

- ・発達段階に応じる
- ・日常生活や体験活動と結び付ける
- ・役割演技など具体的な場面を通じた表現活動を生かす
- ・書く活動や語り合う活動を充実する

(2)発問をどのように吟味するか？

誰のことを訊くのか。何を訊くのか。意図は何か。確認か。広げることか。深めることか。想起か。

(3)発問を核として山場をどうつくるか？

(4)どのようにゆさぶったりきりかえしたりするか？

○本日の授業のよさ

- ・伏線があり、つっこみどころのあるよい資料であった。
- ・総合単元的な学習がうまく機能していた。

学習環境—これから学習するものに関連する本があり、子ども達の目にふれるように置いてある。

音戸に関する絵手紙が掲示されていた。この学習に入る前に子ども達は音戸について描いて、活性化させている。

・中心発問

普通、変容するきっかけとなるところが山場であり、中心発問となるところ。

今日の資料は、いっぺんには変わらない。幾つかのステップがあり、伏線がある。相互補完する意味でも、前の二つの発問は必要である。

○ 発展する課題として—

- ・資料提示の際に、もう少しイメージがわくようにする。
- ・イメージを十分につくってから、書かせる。
- ・出てきた子どもの考えを、どういうふうゆさぶったり、切り返したりしていくか。